

まれなと噂された優しく美しい千代のこまやかな愛情と、彼女のくむ、酒でした。

玄藩はその酒興に、天草灘でとれた、いかを材料としてかんびんをつくり、これで酒をのびましたところ、その味わいの深いにおどろき、以後ながく愛用したとことです。

このかんびんを上手に使い、お酒をお

第一戦の人々

児童福祉司

児童福祉司は、児童福祉法によって、県の児童相談所に勤務することになって、いる職員ですが、現在、熊本児童相談所に六人、八代児童相談所に三人が働いています。

しかし、これだけではまだ十分ではなく九人の人達は毎日忙しく働いています。福祉司の仕事は、ひと口に云えば、『恵まれない子供たちに幸せを、悪い環境にある子供たちに少しでも良い環境を与え、る仕事』ということでしょう。

福祉司の仕事は、いろいろなケースの不幸な子供たちの問題について、相談を受ける相談業務と、子供たちを不幸にしている原因は何か、どうすれば、一番幸せになれるかを調べる、調査業務とがあります。

ひとつ、A子ちゃんという、ひとりの子供の場合を追って、児童福祉司の仕事をお話してみよう。

いしくのむ方法としては、好みの酒を、別の容器で、やや熱つめにかんびんにつけたあと、このするめかんびんにうつつし、二三分してから、チビリチビリと飲みだすわけです。

この二三分おくのが秘訣で、この間に、するめの香りが酒にまじりあってアルコールの刺激性をやわらげ、一種独特の、こくのある味わいの酒となるわけ

A子ちゃんは、熊本市内の繁華街で、ウロウロしているところを、警察のママポリスに補導されて、児童相談所へつれてこられました。A相談所へどくこうした相談は、熊本の場合、警察からのものが最も多いようです。勿論、学校からや、家族、あるいは町村役場から連絡がある場合もあります。V

つれてこられたA子ちゃんは、もう、小学校に上っていないけれども、年ですが、学校へも行かず、ただ遊んでいたようです。福祉司は、A子ちゃんを相談所に一時保護して、早速家庭の調査を始めました。

調査の結果、まず、A子ちゃんのお母さんが去年亡くなったこと、お父さんは、出稼ぎに出たまま、家にいないことなど、A子ちゃんの生活環境がわかりました。次に、A子ちゃんについて、知能、性格、心理状態などをテストした結果、知能はかなり遅れていること、また愛情の支えを失ったA子ちゃんの性格は、非常に不安定であること、なども判

す。かわかして、保存すれば、大体十数回使うことができ、おしまいはこれを焼いてしょう油をつけてたべますと、かんびんとして使っているうちにしみこんだ豊じゅん酒の香りとあいまって、「酒するめ」としてみなさんの味覚を満足させることでしょう。

花畑町にある県の貿易物産館の展示場

A子ちゃんの場合は、安定した生活環境が、何よりも必要なのです。しかしA子ちゃんを育てていく適当な保護者がいないため、福祉司は、養護施設で、同じような境遇の子供たちと一緒に生活させ、施設の中の学校で、改めて勉強させることが一番良いと判断しました。早速、県の肥後学園に入る手続が、とられることになりました。この手続きまでが福祉司の仕事です。

それから、最近では、こうしたA子ちゃんのようなケースのほか、小児マヒや、交通事故によるからだの不自由な子供のケースが、かなりふえています。つまり、身よりのないとか、家庭が非常に困っているところに、手足の不自由な子供や、目の見えない子供がいて、もしそのままにされるならば、その子の将来のためにも、これは大変なことです。

こんな場合、子供を幸せにする一番適切な方法を考えて、処理しているのが、児童相談所と、児童福祉司です。

うわけです。

この中小企業退職金制度は、昭和三十四年に、最低賃金制度とともに制定されたもので、中小企業と大企業の差を少しでもなくするというネライでつくられた制度です。

熊本県の場合ですと、県下八四五の事業所一万四千人がこの制度に加入しています。

そこで、この制度を簡単に紹介しましょう。まず、この制度に加入した場合中小企業主が、中小企業退職金共済事業団と契約いたします。これは、従業員ごとに掛金を定め、特定の金融機関を経由して毎月掛金を納めるような仕組みになっています。そうしますと、従業員が退職したときには、事業団が退職金を払うということになり、退職金支払い資金に苦労することもなく、手帳に退職金制度を利用できるわけです。

さらに、こういった掛金は全額免税され、退職金を受けるとる場合にも、三年以上になりますと一部に国庫補助金が加算されますので大変有利になるわけです。最近では、協同組合や商店街の集団加入も多くみられ、また、独自の退職金規程のほか、更にこの制度に加入している会社もあり利用者はかなり増加しているようです。

備えあれば憂いなしという言葉がありますが、どこでも、誰でも思いがけない不幸や、苦難がいつふりかかってくるか

わかりません。

この中小企業退職金制度の場合には、五年前に掛金千円で加入した人たちだと、実際の掛金は六万円ですが、現在、すでに七万円の退職金が保証されているわけです。

自分の企業と家族、そして従業員の生活の安全保証のためにも、この制度はぜひ欠かせないものだといえましょう。

ふえる狩猟人口

澄み切った秋空にひびく銃声が色づきはじめたくぬぎ林を快よくゆすぶる一瞬、そして山あいにはまた元の静けさにかえっていく……ハイキング等でよく見かけるハンターの姿です。

ところで、こういった自然の山野を駆けまわり、しかも、誰も見ていないところで、一人でルールを守らなければならぬ狩猟は、ハイスポーツであり、壮快なレクリエーションといえましょう。さしずめ熊本県ですと、球磨地方や阿蘇地方の山がこういったハンターたちのかけめぐる場所になるわけで、獲物はカモ、コケイジユ、イノシシ、兎などといったところでしょう。しかしこの狩猟も、年がら年中ということではありませ

ん。鳥獣保護と安全性という点で狩猟が出来る期間と場所は必ずから決められているわけです。

そこで今年も、いよいよ狩猟解禁が、この十一月一日から行われます。この期間には、もちろん県の狩猟免許をもっていないければ、鳥や獣を捕かくすることはできないことになっています。今日はこの狩猟免許について少しお話ししましょう。

まず免許をうけられる年齢ですが、これは満二十才以上であれば、どなたでも受けることができます。ただし、銃器を所持してない者や、精神異常者などはうけることができません。つい最近、世間を騒がせたライフル乱射事件の例を思い出すまでもなく、一歩使用をあやまれば、殺人のための兇器にもなりかねないからです。次に資格の点ですが、これには県が行なう狩猟講習をうけ、合格した者だけが狩猟免許をうける資格者となるわけです。この講習は、県で毎年九月から十月にかけて行ないますが、一度うけると、三年間その資格は保たれることになっていますが、年々講習会に参加する人たちはふえてきています。

また、県外に出て狩猟しようとする人は、その県庁に申請しなければならぬことになっています。それからよく、少年たちが空気銃をもち歩いているのを見かけますが、これは大へん危険なことです。射撃だけを目的

にはこのするめかんびんが、やはりするめをつくった盃とセットになって即売されています。

おみやげの品として、またおくりものとしても、恰好の品物かと思えます。

また、おみやげばかりでなく、ご自分が、このするめかんびんで、ゆっくり酒を味わいながら、静かな秋の夜長をすごされるのも、また興味深いことかと思えます。

中小企業の退職金制度

中小企業はいつの時代にも、経済変動の悪い部分の影響を一番うけやすいようです。これはある面からいえば、中小企業の経営技術が劣っているとか、信用度が低いということが原因としてあげられています。この中小企業の弱さを補うために、中小企業の体質改善ということが強く叫ばれて、経営管理の合理化、技術の向上、設備の近代化が積極的に行なわれているわけです。

こういった経営合理化の考え方の一つとして、中小企業に働く人たちのための退職金制度があります。いうまでもなく、中小企業で働く従業員の人たちが安心して働いてもらうための共済制度とい

とした空気銃の所持は、十八才以上は認められますが、狩猟の免許は、さきほど申しましたように猟銃同様二十才以上となっているわけです。

とにかく、狩猟は一歩あやまれば、人の命にかかわる危険性もあるわけですから、お互いにルールをよくわきまえて、この壮快なスポーツを、思い切り楽しんで頂きたいものです。

暖房器具と火災

コスモスに埋れる家と教えられ(白陽) 秋もいよいよたけなわ……というより、朝夕はモスのけたたましい鳴き声に、晩秋を感じる今日この頃です。それでも日中の明るい陽差しにゆれるコスモスの赤、白、うす紫の花だまりをみる、すがすがしさはいかにも平和な秋といった風情だといえましょう。

さて、今日は、そろそろ冷えこむ季節を迎えての身のまわりの問題、暖房器具についてお話することにしましょう。皆さんも町にお出かけになった折お気づきのことと思いますが、電気器具店やデパートなどでは、すでに冬の暖房器具が売出されています。ことしは昨年よりも早目に冬がやってきそうな気候の見と